


Dell™ OptiPlex™ 380 サービスマニュアル—SFF (スモールフォームファクタ)

[コンピュータ内部の作業](#)
[仕様](#)
[部品の取り外しと取り付け](#)
[システム基板レイアウト](#)
[セットアップユーティリティ](#)
[Diagnostics \(診断\)](#)

メモ、注意、警告

 **メモ:** コンピュータを使いやすくするための重要な情報を説明しています。

 **注意:** 手順に従わない場合は、ハードウェアの損傷やデータの損失の可能性があることを示しています。

 **警告:** 物的損害、けが、または死亡の原因となる可能性があることを示しています。

Dell™ n シリーズコンピュータをご購入いただいた場合、本書の Microsoft® Windows® OS についての説明は適用されません。

本書の内容は予告なく変更されることがあります。
© 2010 すべての著作権は Dell Inc. にあります。

Dell Inc. の書面による許可のない複製は、いかなる形態においても厳重に禁じられています。

本書で使用されている商標について、Dell および DELL のロゴ、および OptiPlex は Dell Inc. の商標です。ATI Radeon は Advanced Micro Devices, Inc. の商標です。Intel および Core は Intel Corporation の商標または登録商標です。Blu-ray Disc は Blu-ray Disc Association の商標です。Microsoft、Windows、Windows Vista および Windows Vista のスタートボタンは米国その他の国における Microsoft Corporation の商標または登録商標です。

本書では、上記記載以外の商標および会社名が使用されている場合があります。それらの商標や会社名は、一切 Dell Inc. に帰属するものではありません。

2010 年 1 月 Rev. A00

[目次に戻る](#)

セットアップユーティリティ

Dell™ OptiPlex™ 380 サービスマニュアル-SFF(スモールフォームファクタ)

- [起動メニュー](#)
- [ナビゲーションキーストローク](#)
- [セットアップユーティリティの起動](#)
- [セットアップユーティリティのシミュレーション](#)
- [セットアップユーティリティのメニューオプション](#)

起動メニュー

Dell™ ロゴが表示されたときに <F12> を押すと、コンピュータで有効な起動デバイスの一覧がある一回のみの起動メニューが表示されます。

次のオプションが一覧表示されます：

内蔵 HDD
CD/DVD/CD-RW Drive(CD-ROM/DVD/CD-RW ドライブ)
Onboard NIC(オンボード NIC)
BIOS Setup(BIOS セットアップ)
Diagnostics(診断)

特定のデバイスで起動する場合や、コンピュータの診断を表示する場合に、このメニューは便利です。この起動メニューを使用しても、BIOS に保存されている起動順序は変更されません。

ナビゲーションキーストローク

以下のキーストロークを使用してセットアップユーティリティ画面を切り替えます。

ナビゲーションキーストローク	
動作	キーストローク
フィールドの展開と折りたたみ	<Enter> キー、左、または右矢印キー、 +/- キー
すべてのフィールドの展開または折りたたみ	< >
BIOS の終了	<Esc> —セットアップを続行、保存して終了、変更を破棄して終了
設定の変更	左右の矢印キー
変更するフィールドの選択	<Enter>
変更のキャンセル	<Esc>
デフォルトへのリセット	<Alt><F> または Load Defaults(デフォルトの読み込み)メニューオプション

セットアップユーティリティの起動

お使いのコンピュータでは、次の BIOS、およびシステムセットアップオプションを使用できます：

- 1 <F12> を押して 1 回限りの起動メニューを表示する
- 1 <F2> を押してシステムセットアップにアクセスする

<F12> メニュー

Dell™ ロゴが表示されたときに <F12> を押すと、コンピュータで有効な起動デバイスの一覧がある一回のみの起動メニューが表示されます。Diagnostics(診断)および Enter Setup(セットアップユーティリティの起動)オプションもこのメニューにあります。起動メニューに表示されるデバイスは、コンピュータに取り付けられている起動可能なデバイスによって異なります。特定のデバイスで起動する場合や、コンピュータの診断を表示する場合に、このメニューは便利です。この起動メニューを変更しても、BIOS に保存されている起動順序は変更されません。

<F2>

<F2> を押してセットアップユーティリティを起動し、ユーザー定義が可能な設定を変更します。このキーを押してもセットアップユーティリティが起動しない場合は、キーボードのライトが最初に点灯した時に <F2> を押します。

セットアップユーティリティのメニューオプション

メモ: セットアップユーティリティのオプションはお使いのコンピュータによって異なり、全く同じ順序で表示されない可能性があります。

全般	
システム基板	以下の情報が表示されます。 <ol style="list-style-type: none">1 システム情報: BIOS 情報、システム情報、サービスタグ、エクスプレスサービスコード、アセットタグ、製造日、所有日を表示します。1 メモリ情報: 取り付け済みメモリ、使用可能なメモリ、メモリスピード、メモリチャネルモード、メモリ技術、DIMM_1 サイズ、DIMM_2 サイズ、DIMM_3 サイズ、DIMM_4 サイズを表示します。1 プロセッサ情報: プロセッサタイプ、プロセッサスピード、プロセッサバススピード、プロセッサ L2 キャッシュ、プロセッサ ID、マイクロコードバージョン、マルチコア対応および HT 対応 64 ビットテクノロジーを表示します。1 PCI 情報: システム基板上の使用可能なスロットを表示します。

Date/Time(日付 / 時刻)	コンピュータの日付と時刻が表示されます。システムの日付と時刻の変更はすぐに有効になります。
Boot Sequence(起動順序)	このリスト内の指定されたデバイスからコンピュータが OS を探す順序です。 <ul style="list-style-type: none"> 1 オンボード、または USB フロッピー 1 ハードドライブ (現在コンピュータにインストールされているハードドライブのモデル番号が一覧表示されます) 1 オンボード、または USB CD-ROM ドライブ 1 USB デバイス

ドライブ	
Diskette drive(ディスケットドライブ)	このフィールドで、BIOS でフロッピードライブを設定する方法を指定しますが、USB サポート付きのオペレーティングシステムはこの設定に関係なく、USB フロッピードライブを認識します。 <ul style="list-style-type: none"> 1 Disable(無効) - すべてのフロッピードライブは無効に設定されます。 1 Enable(有効) - すべてのフロッピードライブは有効に設定されます。 「USB Controller(USB コントローラ)」セットアップオプションは、フロッピーの操作に影響を及ぼします。
SATA Operation(SATA 動作)	内蔵ハードドライブコントローラの動作モードを設定します。 <ul style="list-style-type: none"> 1 RAID Autodetect / AHCI (RAID 自動検出 / AHCI) = 署名付ドライブがあれば RAID 検出、それ以外の場合は AHCI 1 RAID Autodetect / ATA (RAID 自動検出 / ATA) = 署名付ドライブがあれば RAID 検出、それ以外の場合は ATA 1 RAID On / ATA = 起動するたびに RAID 用に設定されます。 1 レガシー = レガシーモード用にハードドライブコントローラが設定されます。 レガシーモードでは、ドライブコントローラに割り当てられたネイティブリソースをサポートしない旧型のオペレーティングシステムでも互換します。 メモ: RAID モードは ImageServer と互換性がありません。イメージサーバを有効にするには RAID モードを無効にします。
S.M.A.R.T.Reporting(レポート)	このフィールドで、起動時に内蔵ドライブのハードドライブエラーを報告するかどうかを制御します。このテクノロジーは、SMART (Self-Monitoring Analysis and Reporting Technology) 仕様の 1 つです。 このオプションはデフォルトで無効に設定されています。
ドライブ	システム基板に接続されている SATA または ATA ドライブを有効または無効にします。

System Configuration(システム構成)	
Integrated NIC(オンボード NIC)	オンボードネットワークカードを有効または無効にします。オンボード NIC は次のいずれかに設定できます。 <ul style="list-style-type: none"> 1 Disable(無効) 1 Enable(有効)(デフォルト) 1 Enable with PXE(PXE 付で有効) 1 Enable with ImageSever(ImageSever 付で有効) ImageServe は RAID モードと互換性がありません。Image Server を有効に設定する場合は、RAID を無効にしてください。 PXE はサーバ上にあるオペレーティングシステムを起動する場合のみ必要です。このコンピュータのハードドライブ上にある OS を起動する場合は必要ありません。
FlexBay 用 USB	このフィールドでは、FlexBay 用内蔵 USB を有効、および無効に設定します。以下の設定が可能です。 <ul style="list-style-type: none"> 1 Disable(無効) - FlexBay 用内蔵 USB を無効に設定します。 1 Enable(有効) - FlexBay 用内蔵 USB を有効に設定します。 1 No Boot(起動なし) - FlexBay 用内蔵 USB が有効ですが、起動可能ではありません。(デフォルト)
USB コントローラ	内蔵 USB コントローラの有効 / 無効を切り替えます。USB コントローラは次のいずれかに設定できます。 <ul style="list-style-type: none"> 1 Enable(有効)(デフォルト) 1 Disable(無効) 1 No boot(起動なし) USB サポートを備えたオペレーティングシステムは USB ストレージを認識します。
Parallel Port(パラレルポート)	パラレルポートの設定を識別して定義します。パラレルポートは次のいずれかに設定できます。 <ul style="list-style-type: none"> 1 Disable(無効) 1 AT 1 PS/2(デフォルト) 1 EPP 1 ECP No DMA 1 ECP DMA 1 1 ECP DMA 3
Parallel Port Address(パラレルポートアドレス)	内蔵パラレルポートのベース I/O アドレスを設定します。
Serial Port #1(シリアルポート #1)	シリアルポート設定を識別および定義します。シリアルポートは次のいずれかに設定できます。 <ul style="list-style-type: none"> 1 Disable(無効) 1 Auto(自動)(デフォルト) 1 COM1 1 COM3 設定が無効でも、オペレーティングシステムがリソースを割り当てる場合があります。
Serial Port #2(シリアルポート #2)	シリアルポート設定を識別および定義します。シリアルポートは次のいずれかに設定できます。

	<ul style="list-style-type: none"> 1 Disable (無効) 1 Auto (自動) (デフォルト) 1 COM2 1 COM4 <p>設定が無効でも、オペレーティングシステムがリソースを割り当てる場合があります。</p>
Miscellaneous Devices(その他のデバイス)	<p>以下のオンボードデバイスを有効または無効にします。</p> <ul style="list-style-type: none"> 1 Front USB(前面 USB) 1 PCI スロット 1 オーディオ

ビデオ	
プライマリビデオ	<p>2 つのコントローラがコンピュータで利用可能な場合、このフィールドで、どちらをプライマリビデオコントローラにするかを指定します。ビデオコントローラが 2 つある場合のみ、このフィールドに注意してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> 1 Auto (自動) (デフォルト) - アドインビデオコントローラを使用します。 1 オンボード / カード - グラフィックスカードを取り付けているとき以外は、内蔵ビデオコントローラを使用します。PEG (PCI Express Graphic) カードはオーバーライドして、内蔵ビデオコントローラを無効にします。

Performance(パフォーマンス)	
マルチコアサポート	<p>プロセッサでコアを 1 つ、あるいはすべて有効にするかこのフィールドで指定します。一部のアプリケーションはコアが多い方がパフォーマンスが良くなります。</p>
Intel® SpeedStep™	<p>プロセッサの Intel® SpeedStep™ モードを有効、または無効に設定するオプションです。無効に設定すると、コンピュータは最高度のパフォーマンスに設定され、Intel® SpeedStep™ アプレットやネイティブオペレーティングシステムドライバでプロセッサのパフォーマンス調節ができなくなります。Intel® SpeedStep™ を有効に設定した場合、有効にされた CPU はマルチパフォーマンス状態で動作できるようになります。</p> <p>このオプションはデフォルトで無効に設定されています。</p>
C ステートコントロール	<p>追加のプロセッサのスリープ状態を有効、または無効に設定します。オペレーティングシステムは、アイドル時、オプションとしてこの機能を使用し、電力を節約します。</p> <p>このオプションはデフォルトで無効に設定されています。</p>
Limit CPUID Value(CPU ID 値の制限)	<p>プロセッサの標準 CPU ID 機能がサポートする最大値を制限するフィールドです。サポートされる CPUID 機能の最大値が 3 を超えると、一部のオペレーティングシステムではインストールが完了しません。</p> <p>このオプションはデフォルトで無効に設定されています。</p>
HDD Acoustic Mode (HDD アコースティックモード)	<p>このオプションでは、ユーザーの好みに合わせてハードドライブのパフォーマンスと音響ノイズレベルを最適化することができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> 1 Bypass (デフォルト) - 何も実行されません(古いタイプのドライブ用)。 1 Quiet (静音) - ドライブは低速ですが、ノイズを低く抑えます。 1 Suggested (推奨) - ドライブの製造メーカーでモードを選択できます。 1 Performance (パフォーマンス) - ドライブは高速ですが、ノイズが増えます。

Virtualization Support (仮想技術サポート)	
Virtualization(仮想技術)	<p>このオプションは、仮想マシンモニター(VMM)で Intel® Virtualization Technology によって提供される付加的なハードウェア機能を利用できるかどうかを指定します。</p> <p>Enable Intel® Virtualization Technology (Intel® Virtualization Technology を有効化) - このオプションはデフォルトで無効に設定されています。</p>
VT for Direct I/O(直接 I/O 用の仮想化テクノロジー)	<p>Intel® Virtualization Technology for Direct I/O によって提供される付加的なハードウェア機能を仮想マシンモニター(VMM)が利用するかどうかを指定します。</p> <p>Enable Intel® Virtualization Technology for Direct I/O (Intel® Virtualization Technology for Direct I/O を有効化) - このオプションはデフォルトで無効に設定されています。</p>
Trusted Execution	<p>このフィールドで、Measured Virtual Machine Monitor (MVMM)で Intel® Trusted Execution (トラステッドエグゼキューション)テクノロジーによって提供される付加的なハードウェア機能を利用できるかどうかを指定します。この機能を使用するには、</p> <p>Enable Intel® Trusted Execution Technology (Intel® Trusted Execution Technology を有効化) - このオプションはデフォルトで無効に設定されています。</p>

Security(セキュリティ)	
Administrative Password(管理者パスワード)	<p>コンピュータのセットアップユーティリティへのアクセスを制限できます。これは、System Password(システムパスワード)オプションでシステムへのアクセスを制限するのと同様のオプションです。</p> <p>このオプションは、デフォルトでは設定されていません。</p>
System Password(システムパスワード)	<p>システムのパスワードセキュリティ機能の現在の状態が表示され、新しいシステムパスワードを設定したり確認することができます。</p> <p>このオプションは、デフォルトでは設定されていません。</p>
Password Changes(パスワードの変更)	<p>Administrator(管理者)パスワードを持たないユーザーによるシステムパスワードの変更を許可するかどうかを指定します。</p> <p>このオプションはデフォルトで有効に設定されています。</p>

CPU XD Support(CPU XD のサポート)	プロセッサの実行防止モードを有効または無効にします。 このオプションはデフォルトで有効に設定されています。
Computrace(R)	資産管理用に設計されているオプションの Computrace® サービスを有効または無効にします。 以下のオプションから選択できます。 <ul style="list-style-type: none"> ┆ Deactivate(無効)(デフォルト) ┆ Disable(無効) ┆ Activate(有効)
SATA-0 Password(SATA-0 パスワード)	システム基板の SATA-0 コネクタに接続されているハードドライブに設定されているパスワードの現在のステータスが表示されます。 新しいパスワードを設定することも可能です。このオプションは、デフォルトでは設定されていません。 メモ: セットアップユーティリティには、システム基板に接続されている各ハードドライブのパスワードが表示されます。

Power Management(電力の管理)	
AC Recovery(AC 回復)	停電後の AC 電源投入時にシステムがどのように対応するかを決めます。AC リカバリは次のいずれかに設定できます。 <ul style="list-style-type: none"> ┆ Power Off(電源オフ)(デフォルト) ┆ Power On(電源オン) ┆ Last State(最終状態)
Auto On Time(設定時刻に自動起動)	コンピュータの電源を自動的にオンにする時間を設定します。 時刻は標準の 12 時間形式(時:分:秒)で表示されます。 時刻と AM/PM のフィールドに値を入力して、起動時刻を変更します。 メモ: この機能は、電源タップのスイッチやサージプロテクタでコンピュータをシャットダウンした場合、または Auto Power On(自動電源オン)が無効に設定されている場合は動作しません。
Low Power Mode(低電力モード)	節電モードを有効または無効にします。 このオプションはデフォルトで無効に設定されています。 低電力モードが有効になっていると、コンピュータがシャットダウンされたり休止状態になったときに内蔵ネットワークカードが無効になります。リモートでコンピュータを起動できるのは、アドインネットワークカードのみです。
Remote Wake Up(リモートウェイクアップ)	このオプションを有効にすると、ネットワークインタフェースコントローラが起動信号を受信したときにコンピュータが起動します。Remote Wakeup(リモートウェイクアップ)には次の設定があります。 <ul style="list-style-type: none"> ┆ Disable(無効)(デフォルト) ┆ Enable(有効) ┆ Enable with Boot NIC(起動 NIC で有効)
Suspend Mode(サスペンドモード)	電力管理のサスペンドモードを次のいずれかに設定します。 <ul style="list-style-type: none"> ┆ S1 ┆ S3(デフォルト)
Fan Control Override(ファンコントロールオーバーライド)	システムファンの速度を制御します。 メモ: 有効にすると、ファンは最大速度で動作します。

Maintenance(メンテナンス)	
Service Tag(サービスタグ)	お使いのコンピュータのサービスタグが表示されます。
Asset Tag	Asset Tag が未設定の場合、システムの Asset Tag を作成できます。 このオプションは、デフォルトでは設定されていません。
SERR Messages(SERR メッセージ)	SERR Message(SERR メッセージ)メカニズムを制御します。 このオプションはデフォルトで有効に設定されています。 グラフィックスカードの中には、SERR Message メカニズムを無効にしておく必要があるものもあります。

Image Server	
Lookup Method(検出方法)	ImageServer によるサーバーアドレスの検出方法を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> ┆ Static IP(静的 IP) ┆ DNS メモ: Lookup Method を設定するには、Integrated NIC(オンボード NIC) を Enable with ImageServer(ImageServer で有効)に設定する必要があります。
ImageServer IP	クライアントソフトウェアが通信する ImageServer のプライマリ静的 IP アドレスを指定します。

	<p>デフォルト IP アドレスは 255.255.255.255 です。</p> <p>メモ: ImageServer IP を設定するには、Integrated NIC(オンボード NIC) を Enable with ImageServer(ImageServer で有効) に設定する必要があります。</p>
ImageServer ポート	<p>クライアントソフトウェアが通信するイメージサーバーのプライマリ IP ポートを指定します。</p> <p>デフォルト IP ポートは 06910 です。</p>
Client DHCP(クライアント DHCP)	<p>クライアントによる IP アドレスの入手方法を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ! Static IP(静的 IP) ! DHCP(デフォルト)
Client IP(クライアント IP)	<p>クライアントの静的 IP アドレスを指定します。</p> <p>デフォルト IP アドレスは 255.255.255.255 です。</p> <p>メモ: Client IP(クライアント IP)を設定するには、Client DHCP(クライアント DHCP)を Static IP(静的 IP)に設定する必要があります。</p>
Client SubnetMask(クライアントサブネットマスク)	<p>クライアントのサブネットマスクを指定します。</p> <p>デフォルト設定は 255.255.255.255 です。</p> <p>メモ: Client SubnetMask(クライアントサブネットマスク)を設定するには、Client DHCP(クライアント DHCP)を Static IP(静的 IP)に設定する必要があります。</p>
Client Gateway(クライアントゲートウェイ)	<p>クライアントのゲートウェイ IP アドレスを指定します。</p> <p>デフォルト設定は 255.255.255.255 です。</p> <p>メモ: Client SubnetMask(クライアントサブネットマスク)を設定するには、Client DHCP(クライアント DHCP)を Static IP(静的 IP)に設定する必要があります。</p>
License Status(ライセンスステータス)	現在のライセンスステータスが表示されます。

POST Behavior(POST 動作)

Fast Boot(高速起動)	有効(デフォルト)に設定すると、一部の設定とテストがスキップされるため、コンピュータが高速に起動します。
NumLock LED	<p>コンピュータ起動時の NumLock 機能を有効または無効にします。</p> <p>有効(デフォルト)に設定すると、各キーの上側に表示されている数字と演算記号が有効になります。無効に設定すると、各キーの下側に表示されているカーソル制御機能が有効になります。</p>
POST Hotkeys(POST ホットキー)	<p>このオプションでは、コンピュータの起動時に画面に表示されるファンクションキーを指定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ! Enable F2 = Setup(セットアップ) (デフォルトで有効) ! Enable F12 = Boot menu(起動メニュー) (デフォルトで有効)
Keyboard Errors(キーボードエラー)	<p>コンピュータの起動時にキーボードエラーを報告するかどうかを指定します。</p> <p>このオプションはデフォルトで有効に設定されています。</p>
MEBx Hotkey(MEBx ホットキー)	<p>サインオン時、MEBx(Manageability Engine BIOS Extensions)セットアッププログラムの起動に必要なキーストロークシーケンスを示すメッセージが表示されます。</p> <p>このオプションはデフォルトで有効に設定されています。</p>
OS Install(OS のインストール)	<p>インストール時にオペレーティングシステムを読み込むための最大メモリを設定します。有効に設定している場合、利用可能な最大メモリは 256 MB RAM です。</p> <p>このオプションは、デフォルトで無効に設定されています。</p> <p>メモリが 2 GB 以上のオペレーティングシステムがインストールを完了できないのはこのためです。</p>

System Logs(システムログ)

BIOS Events(BIOS イベント)	<p>システムイベントログが表示され、ユーザーは次の操作を選択できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ! Clear Log(ログのクリア) ! Mark all Entries(すべてのエントリにマークを付ける)
------------------------	--

[目次に戻る](#)

[目次に戻る](#)

コイン型バッテリー

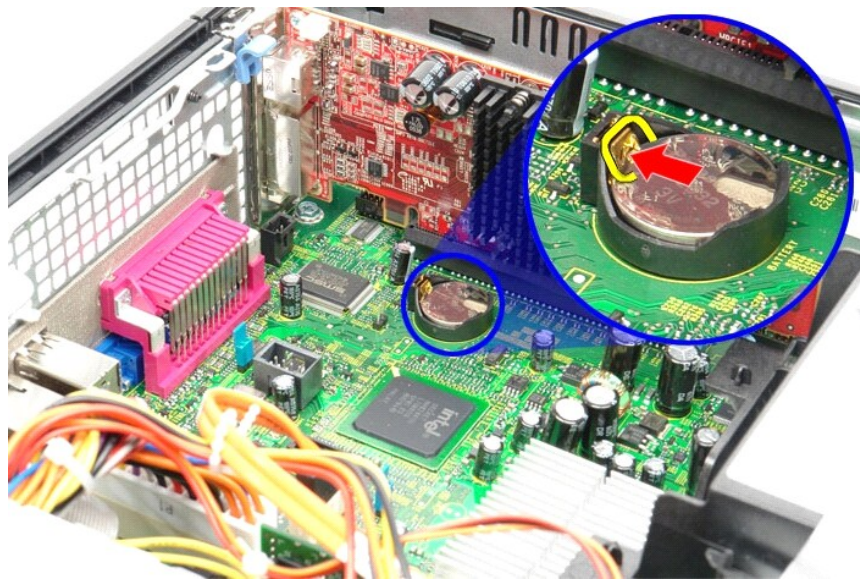
Dell™ OptiPlex™ 380 サービスマニュアル-SFF(スモールフォームファクタ)



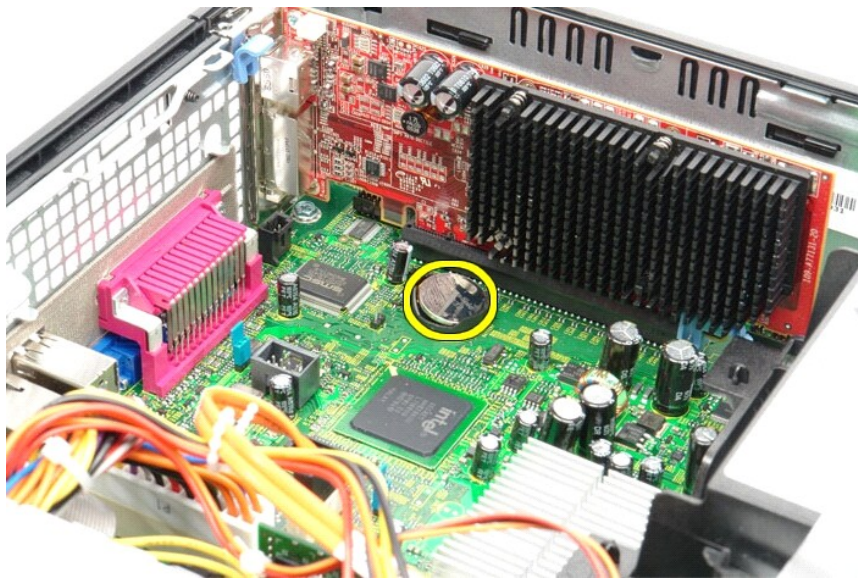
警告: コンピュータ内部の作業を始める前に、お使いのコンピュータに付属しているガイドの安全にお使いいただくための注意事項をお読みください。安全にお使いいただくためのベストプラクティスの追加情報に関しては、規制順守ホームページ www.dell.com/regulatory_compliance をご覧ください。

コイン型バッテリーの取り外し

1. [コンピュータ内部の作業を始める前に](#)の手順に従います。
2. [ハードドライブアセンブリ](#)を取り外します。
3. コイン型バッテリーリリースラッチを押し入れます。



4. コイン型バッテリーをコンピュータから取り外します。



コイン型バッテリーの取り付け

コイン型バッテリーを取り付けるには、上記の手順を逆の順序で行います。

[目次に戻る](#)

[目次に戻る](#)

カバー

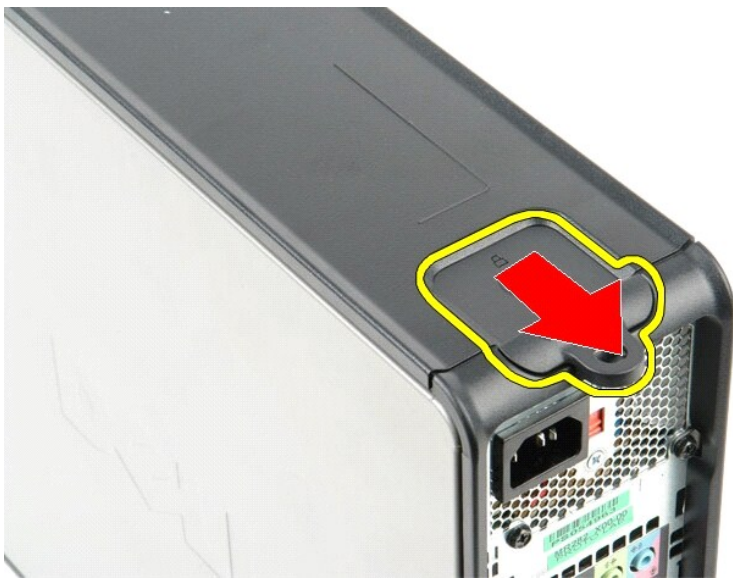
Dell™ OptiPlex™ 380 サービスマニュアル-SFF(スモールフォームファクタ)



警告: コンピュータ内部の作業を始める前に、お使いのコンピュータに付属しているガイドの安全にお使いいただくための注意事項をお読みください。安全にお使いいただくためのベストプラクティスの追加情報に関しては、規制順守ホームページ www.dell.com/regulatory_compliance をご覧ください。

カバーの取り外し

1. [コンピュータ内部の作業を始める前に](#)の手順に従います。
2. カバーリリーススラッチを後方へスライドさせます。



3. カバーをトップから外側に傾け、コンピュータから取り外します。



カバーの取り付け

カバーを取り付ける場合は、上記の手順を逆に行ってください。

[目次に戻る](#)

[目次に戻る](#)

Diagnostics(診断)

Dell™ OptiPlex™ 380 サービスマニュアル

- [Dell Diagnostics](#)
- [電源ボタンスライトコード](#)
- [ビープコード](#)
- [診断ライト](#)

Dell Diagnostics

Dell Diagnostics を使用する場合

作業を始める前に、これらの手順を印刷しておくことをお勧めします。

- 📌 **メモ:** Dell Diagnostics ソフトウェアは Dell コンピュータでのみ機能します。
- 📌 **メモ:** 『Drivers and Utilities』メディア はオプションで、コンピュータに付属していない場合があります。

セットアップユーティリティを起動し([セットアップユーティリティの起動](#)を参照)、コンピュータの設定情報を閲覧して、テストするデバイスがセットアップユーティリティに表示され、アクティブであることを確認します。

ハードドライブまたは『Drivers and Utilities』メディアから Dell Diagnostics を起動します。

Dell Diagnostics をハードドライブから起動する場合

1. コンピュータの電源を入れます(または再起動します)。
2. DELL ロゴが表示されたら、すぐに <F12> を押します。

- 📌 **メモ:** 診断ユーティリティのパーティションが見つかりません、というメッセージが表示された場合は、『Drivers and Utilities』メディアから Dell Diagnostics (診断)プログラムを起動します。

キーを押すタイミングが遅れて OS のロゴが表示されてしまったら、Microsoft® Windows® デスクトップが表示されるのを待ち、コンピュータをシャットダウンして操作をやり直してください。

3. 起動デバイス一覧が表示されたら、Boot to Utility Partition (ユーティリティパーティションから起動)をハイライト表示して <Enter> を押します。
4. Dell Diagnostics Main Menu(メインメニュー)が表示されたら、実行したいテストを選択します。

『Drivers and Utilities』ディスクからの Dell Diagnostics の起動

1. 『Drivers and Utilities』ディスクを挿入します。
2. コンピュータをシャットダウンして、再起動します。

DELL ロゴが表示されたら、すぐに <F12> を押します。

キーを押すタイミングが遅れて Windows ロゴが表示されてしまったら、Windows デスクトップが表示されるのを待ち、コンピュータをシャットダウンして操作をやり直してください。

- 📌 **メモ:** 次の手順は、起動順序を 1 回だけ変更します。次の起動時には、コンピュータはセットアップユーティリティで指定したデバイスから起動します。

3. 起動デバイスのリストが表示されたら、Onboard or USB CD-ROM Drive(オンボードまたは USB の CD-ROM ドライブ)をハイライト表示し、<Enter> を押します。
4. 表示されたメニューから Boot from CD-ROM(CD-ROM から起動)オプションを選択し、<Enter> を押します。
5. 1 と入力してメニューを起動し、<Enter> を押して続行します。
6. 番号の付いたリストから Run the 32 Bit Dell Diagnostics(32 Bit Dell Diagnostics の実行)を選択します。複数のバージョンがリストにある場合は、お使いのコンピュータに対応したバージョンを選択します。
7. Dell Diagnostics Main Menu(メインメニュー)が表示されたら、実行したいテストを選択します

Dell Diagnostics の Main Menu(メインメニュー)

1. Dell Diagnostics がロードされ、Main Menu(メインメニュー)画面が表示されたら、目的のオプションのボタンをクリックします。

オプション	機能
Express Test	デバイスのクイックテストを実行します。通常このテストは 10~20 分かかり、お客様の操作は必要ありません。最初に Express Test(簡易テスト)を実行すると、問題を迅速に特定できる可能性が増します。
Extended Test	デバイスの全体的なチェックを実行します。通常このテストには 1 時間以上かかり、質問に定期的に応答する必要があります。
Custom Test	特定のデバイスをテストします。実行するテストをカスタマイズできます。

Symptom Tree	検出した最も一般的な症状を一覧表示し、問題の症状に基づいたテストを選択することができます。
--------------	---






2. テスト実行中に問題が検出されると、エラーコードと問題の説明を示したメッセージが表示されます。エラーコードと問題の説明を書き留め、画面の指示に従います。
3. Custom Test または Symptom Tree オプションからテストを実行する場合は、次の表の該当するタブをクリックして、詳細情報を参照します。

タブ	機能
Results	テストの結果、および発生したすべてのエラーの状態が表示されます。
Errors	検出されたエラー状態、エラーコード、問題の説明が表示されます。
Help	テストの説明が表示されます。また、テストを実行するための要件が示される場合もあります。
Configuration	選択したデバイスのハードウェア構成が表示されます。 Dell Diagnostics では、セットアップユーティリティ、メモリ、および各種内部テストからすべてのデバイスの構成情報を取得して、画面の左側ペインのデバイスリストに表示します。デバイスリストには、コンピュータに取り付けられたすべてのコンポーネント名、またはコンピュータに接続されたすべてのデバイス名が表示されるとは限りません。
Parameters	テストの設定を変更して、テストをカスタマイズすることができます。

4. 『Drivers and Utilities』ディスクから Dell Diagnostics を実行している場合は、テストが終了したらディスクを取り出します。
5. テスト画面を終了して、Main Menu(メインメニュー)画面に戻ります。Dell Diagnostics を終了してコンピュータを再起動するには、Main Menu(メインメニュー)画面に戻ります。

電源ボタンライトコード

診断ライトからシステム状態についての詳細情報を得られますが、従来の電源ライトの状態もコンピュータでサポートされています。電源ライトの状態を以下の表に示します。

電源ライトの状態	説明
 オフ	電源がオフで、ライトは消灯しています。
 橙色に点滅	電源投入時の初期状態。 システムに電源が投入されていますが、POWER_GOOD 信号がまだアクティブではありません。 もし、 ハードドライブライトがオフ の場合、電源を交換する必要があると考えられます。 ハードドライブライトがオン の場合、オンボードレギュレータまたは VRM に障害があると考えられます。詳細は「診断ライト」を参照してください。
 橙色の点灯	電源投入時の第 2 状態。POWER_GOOD 信号がアクティブで、電源が良好であることを示します。詳細は「診断ライト」を参照してください。
 緑色の点滅	システムの電源が低下し、S1 または S3 の状態です。「診断ライト」を参照して、システムがどの状態なのか判断してください。
 緑色の点灯	システムは S0 状態で、機能しているマシンの通常の電源状態です。 BIOS はライトをこの状態にして、オペコードのフェッチを開始したことを示します。

ビーブコード


POST 中にモニターがエラーメッセージを表示できない場合、コンピュータが問題を特定する、または障害のあるコンポーネントやアセンブリの特定に役立つビーブ音を発します。以下の表に POST 中に生成される可能性のあるビーブコードの一覧を示します。ビーブコードは、状態が修正されるまでコンピュータが起動ルーティンを完了できないような致命的なエラーを示す場合がほとんどです。

コード	原因
1-1-2	マイクロプロセッサレジスタ障害
1-1-3	NVRAM 読み書き障害
1-1-4	ROM BIOS チェックサム障害
1-2-1	プログラム可能インターバルタイマー障害
1-2-2	DMA 初期化障害
1-2-3	DMA ページレジスタ読み書き障害
1-3	ビデオメモリテスト障害
1-3-1 ~ 2-4-4	メモリが正しく認識されていないか使用されていない
3-1-1	スレーブ DMA レジスタ障害
3-1-2	マスタ DMA レジスタ障害
3-1-3	マスタ割り込みマスキングレジスタ障害
3-1-4	スレーブ割り込みマスキングレジスタ障害
3-2-2	割り込みベクタロード障害
3-2-4	キーボードコントローラテスト障害
3-3-1	NVRAM 電力損失
3-3-2	無効な NVRAM 構成

3-3-4	ビデオメモリテスト障害
3-4-1	画面初期化障害
3-4-2	画面リトレース障害
3-4-3	ビデオ ROM の検索障害
4-2-1	タイマーチェックなし
4-2-2	シャットダウン障害
4-2-3	ゲート A20 障害
4-2-4	プロテクトモードで予期しない割り込み発生
4-3-1	アドレス 0FFFFh 以上のメモリ障害
4-3-3	タイマーチップカウンタ 2 の障害
4-3-4	内部時計の停止
4-4-1	シリアルまたはパラレルポートテスト障害
4-4-2	シャドウメモリへのコード解凍不能
4-4-3	数値演算コプロセッサテスト障害
4-4-4	キャッシュテストエラー

診断ライト

問題のトラブルシューティングに役立つように、コンピュータのパンクパネルに「1」、「2」、「3」、および「4」のラベルの付いた 4 つのライトがあります。コンピュータが正常に起動している場合、ライトは点滅してから消灯します。コンピュータが誤作動している場合、ライトのパターンで問題を識別できます。

 **メモ:** POST が完了したら、オペレーティングシステムが起動する前に 4 つのライトはすべて消灯します。

ライトパターン	問題の説明	推奨される処置
①②③④	コンピュータが通常のオフの状態、または pre-BIOS 障害が発生している可能性があります。 コンピュータでオペレーティングシステムが正常に起動した後には、診断ライトは点灯しません。	<ul style="list-style-type: none"> 1 電源コンセントにコンピュータを接続します。 1 問題が解決しない場合、デルにお問い合わせください。
①②③④	プロセッサに障害が発生した可能性があります。	<ul style="list-style-type: none"> 1 プロセッサを装着し直します(お使いのコンピュータのプロセッサに関する情報を参照してください)。 1 問題が解決しない場合、デルにお問い合わせください。
①②③④	メモリモジュールが検出されましたが、メモリ障害が発生しています。	<ul style="list-style-type: none"> 1 2 つ以上のメモリモジュールが取り付けられている場合は、すべてのモジュールを取り外し、1 つのモジュールを取り付け直して、コンピュータを再起動します。コンピュータが正常に起動する場合は、障害のあるモジュールを特定できるまで、モジュールを 1 つずつ追加していくか、エラーのないモジュールをすべて取り付け直します。 1 同じ種類で動作確認済みのメモリがある場合は、そのメモリをコンピュータに取り付けます。 1 問題が解決しない場合、デルにお問い合わせください。
①②③④	グラフィックスカードに障害が発生した可能性があります。	<ul style="list-style-type: none"> 1 取り付けられているグラフィックスカードをすべて装着し直します。 1 動作確認済みのグラフィックスカードがあれば、そのカードをコンピュータに取り付けます。 1 問題が解決しない場合、デルにお問い合わせください。
①②③④	フロッピードライブまたはハードドライブに障害が発生した可能性があります。	すべての電源ケーブルとデータケーブルを装着し直します。
①②③④	USB に障害が発生した可能性があります。	すべての USB デバイスを取り付け直し、ケーブル接続を確認します。
①②③④	メモリモジュールが検出されません。	<ul style="list-style-type: none"> 1 2 つ以上のメモリモジュールが取り付けられている場合は、すべてのモジュールを取り外し、1 つのモジュールを取り付け直して、コンピュータを再起動します。コンピュータが正常に起動する場合は、障害のあるモジュールを特定できるまで、モジュールを 1 つずつ追加していくか、エラーのないモジュールをすべて取り付け直します。 1 同じ種類で動作確認済みのメモリがある場合は、そのメモリをコンピュータに取り付けます。 1 問題が解決しない場合、デルにお問い合わせください。
①②③④	メモリモジュールは検出されましたが、メモリの設定または互換性エラーが発生しています。	<ul style="list-style-type: none"> 1 メモリモジュール / メモリコネクタの配置に特別な要件がないことを確認します。 1 使用しているメモリが、お使いのコンピュータでサポートされているかを確認します(お使いのコンピュータの「仕様」セクションを参照してください)。 1 問題が解決しない場合、デルにお問い合わせください。
①②③④	拡張カードに障害が発生した可能性があります。	<ul style="list-style-type: none"> 1 グラフィックスカード以外の拡張カードを 1 つ取り外してコンピュータを再起動し、競合が発生しているかどうかを調べます。 1 問題が解決しない場合は、取り外したカードを取り付け直し、別のカードを取り外して、コンピュータを再起動します。 1 取り付けられていたそれぞれの拡張カードについて、この手順を繰り返します。コンピュータが正常に起動する場合は、コンピュータから取り外した最後のカードのリソースの競合のトラブルシューティングを行います。 1 問題が解決しない場合、デルにお問い合わせください。
①②③④	別の障害が発生しました。	<ul style="list-style-type: none"> 1 すべてのハードドライブおよびオプティカルドライブのケーブルがシステム基板上に正しく接続されていることを確認します。 1 デバイス(フロッピードライブやハードドライブなど)のエラーメッセージが画面に表示されている場合は、そのデバイスが正常に機能しているかどうかを確認します。 1 オペレーティングシステムがデバイス(フロッピードライブやオプティカルドライブなど)から起動しようとしている場合は、セットアップユーティリティを使用して、コンピュータに取り付けられているデバイスの起動順序が適切かどうかを確認してください。 1 問題が解決しない場合、デルにお問い合わせください。

[目次に戻る](#)

[目次に戻る](#)

拡張カード

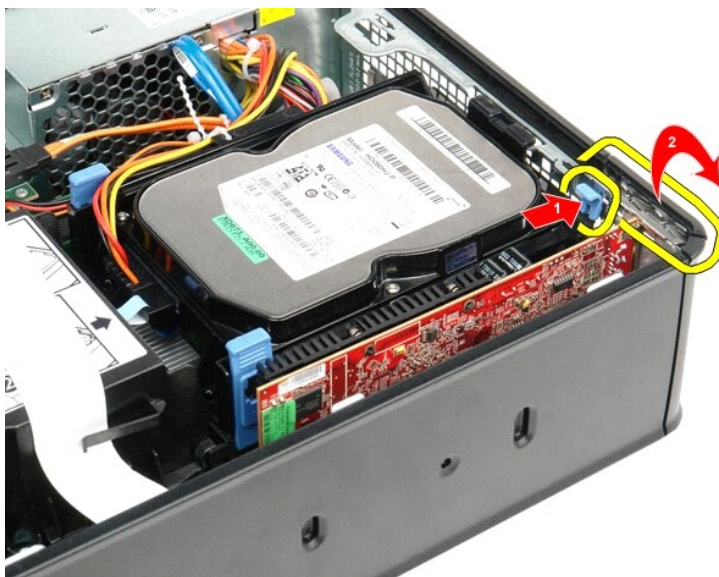
Dell™ OptiPlex™ 380 サービスマニュアル-SFF(スモールフォームファクタ)



警告: コンピュータ内部の作業を始める前に、お使いのコンピュータに付属しているガイドの安全にお使いいただくための注意事項をお読みください。安全にお使いいただくためのベストプラクティスの追加情報に関しては、規制順守ホームページ www.dell.com/regulatory_compliance をご覧ください。

拡張カードの取り外し

1. [コンピュータ内部の作業を始める前に](#)の手順に従います。
2. カード固定ラッチのリリースタブを内側から押し、ラッチを回して開きます。



3. PCI-Express x16 ビデオカードを取り外す場合、[手順 4](#)に進みます。その他の場合は、[手順 5](#)に進みます。
4. 固定タブが外れるまで、固定タブのレバーを押します。



5. カードの上端を持って、コネクタから取り外します。



拡張カードの取り付け

拡張カードを取り付けるには、上記の手順を逆の順序で行います。

[目次に戻る](#)

[目次に戻る](#)

ファン

Dell™ OptiPlex™ 380 サービスマニュアル-SFF(スモールフォームファクタ)



警告: コンピュータ内部の作業を始める前に、お使いのコンピュータに付属しているガイドの安全にお使いいただくための注意事項をお読みください。安全にお使いいただくためのベストプラクティスの追加情報に関しては、規制順守ホームページ www.dell.com/regulatory_compliance をご覧ください。

ファンの取り外し

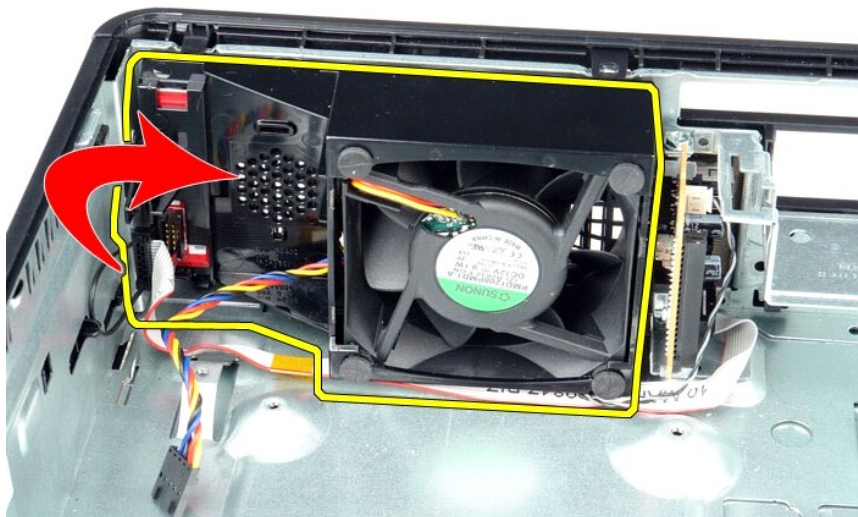
1. [コンピュータ内部の作業を始める前に](#)の手順に従います。
2. システム基板を取り外します。
3. 診断ライトリボンケーブルを取り外します。



4. 固定クリップを押して、コンピュータシャーシからファンを取り外します。



5. ファンを前方に倒し、コンピュータシャーシから取り外します。



ファンの取り付け

ファンを取り付けるには、上記の手順を逆の順序で行います。

[目次に戻る](#)

[目次に戻る](#)

ハードドライブ

Dell™ OptiPlex™ 380 サービスマニュアル—SFF (スモールフォームファクタ)



警告: コンピュータ内部の作業を始める前に、お使いのコンピュータに付属しているガイドの安全にお使いいただくための注意事項をお読みください。安全にお使いいただくためのベストプラクティスの追加情報に関しては、規制順守ホームページ www.dell.com/regulatory_compliance をご覧ください。

ハードドライブの取り外し

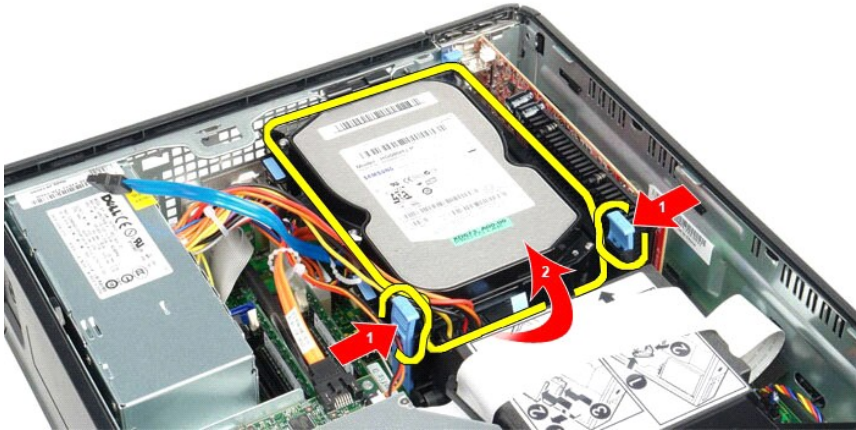
1. [コンピュータ内部の作業を始める前に](#)の手順に従います。
2. ケーブルの接続を外します。



3. データケーブルをシステム基板上から外します。



4. ハードドライブアセンブリ両端にある青い固定タブを押し込み、アセンブリを上方向にスライドさせてコンピュータから取り外します。



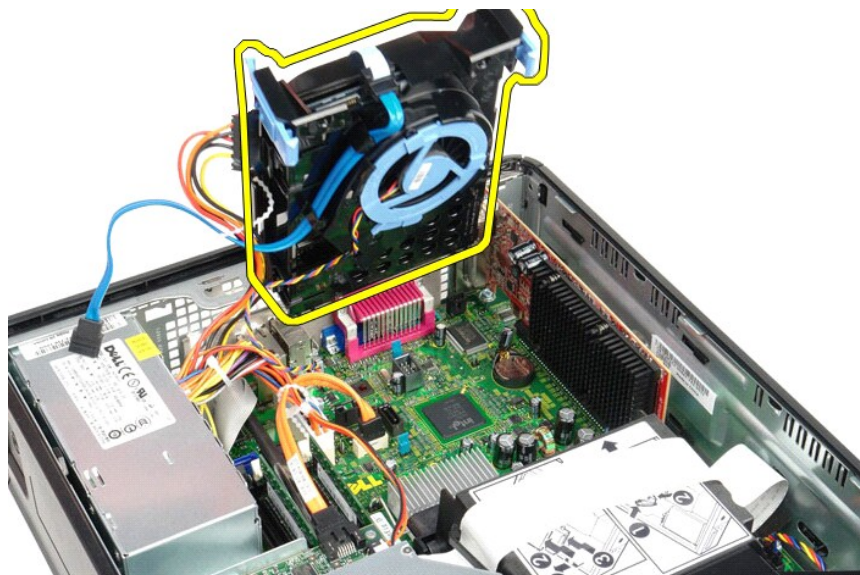
5. ハードドライブの電源ケーブルを外します。



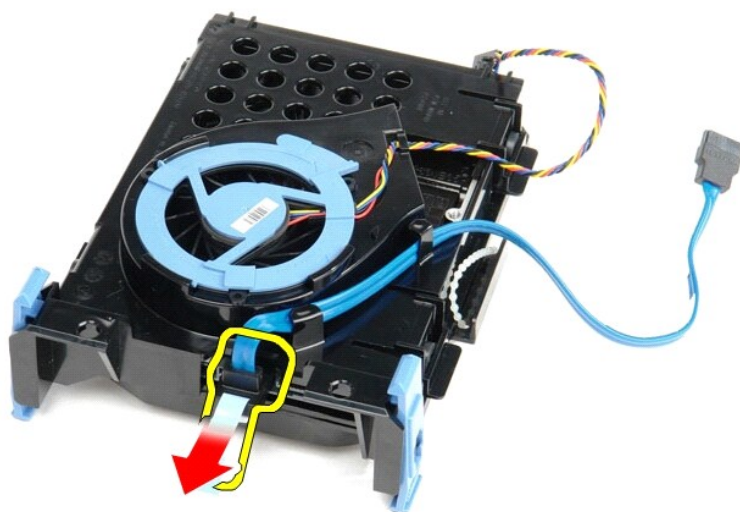
6. ハードドライブファンケーブルを外します。



7. ハードドライブアセンブリをコンピュータから取り外します。



8. 青いタブを引っ張って、ハードドライブデータケーブルをハードドライブアセンブリから外します。



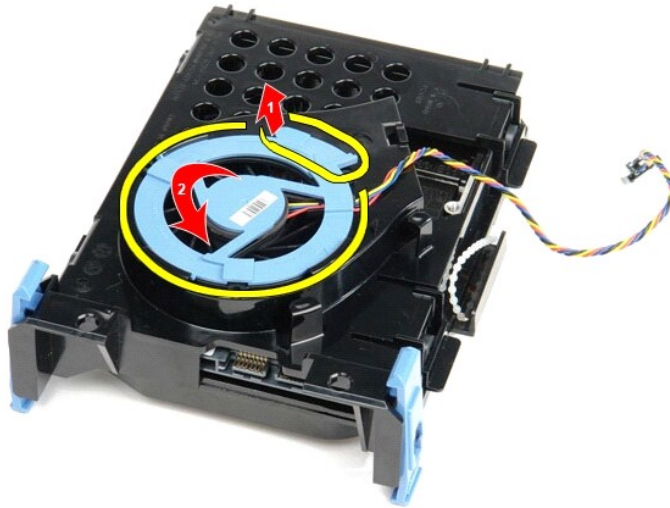
9. ハードドライブアセンブリの外側からハードドライブデータケーブルを取り外します。



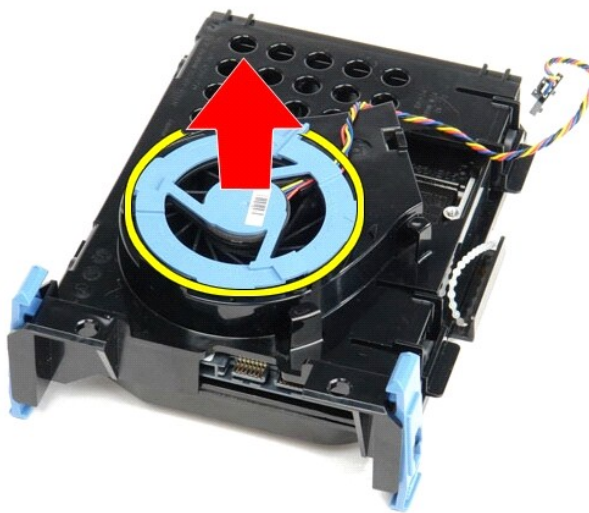
10. ハードドライブアセンブリの外側からハードドライブファンケーブルを取り外します。



11. 青いタブを持ち上げて反時計回りに回し、ハードドライブファンをハードドライブアセンブリから取り外します。



12. ハードドライブファンをハードドライブアセンブリから取り外します。



13. 青いタブを後方へ引き、ハードドライブを前方に引いて、ハードドライブをハードドライブアセンブリから取り外します。



14. ハードドライブをハードドライブアセンブリから取り外します。



ハードドライブの取り付け

ハードドライブを取り付けるには、上記の手順を逆の順序で行います。

[目次に戻る](#)

[目次に戻る](#)

ヒートシンクとプロセッサ

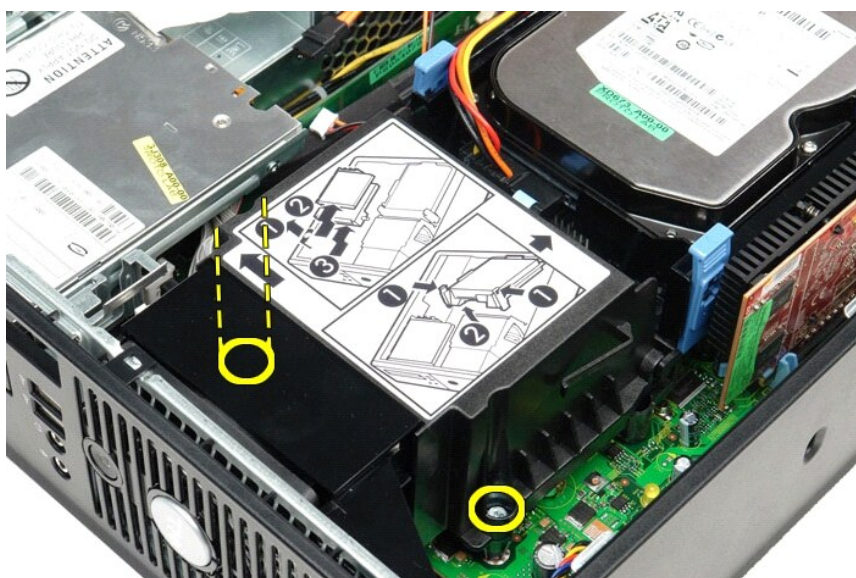
Dell™ OptiPlex™ 380 サービスマニュアル-SFF(スモールフォームファクタ)



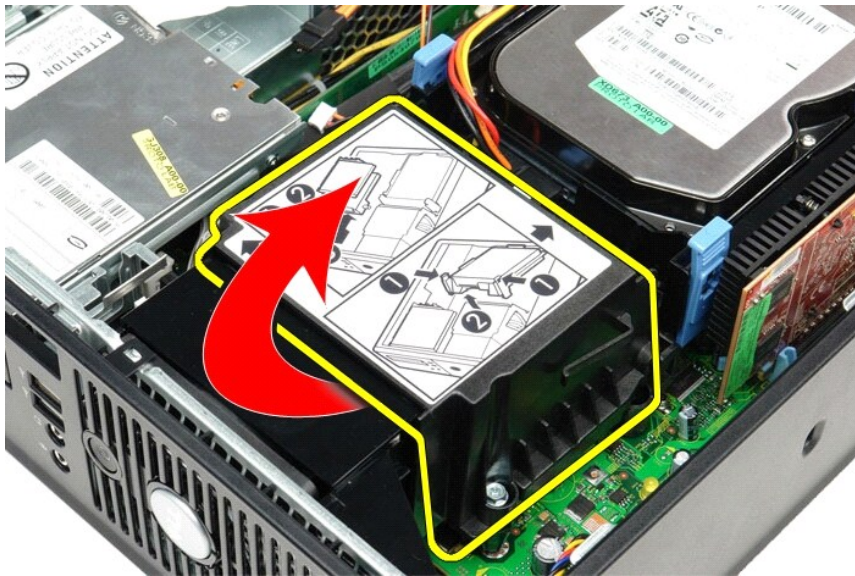
警告: コンピュータ内部の作業を始める前に、お使いのコンピュータに付属しているガイドの安全にお使いいただくための注意事項をお読みください。安全にお使いいただくためのベストプラクティスの追加情報に関しては、規制順守ホームページ www.dell.com/regulatory_compliance をご覧ください。

ヒートシンクとプロセッサの取り外し

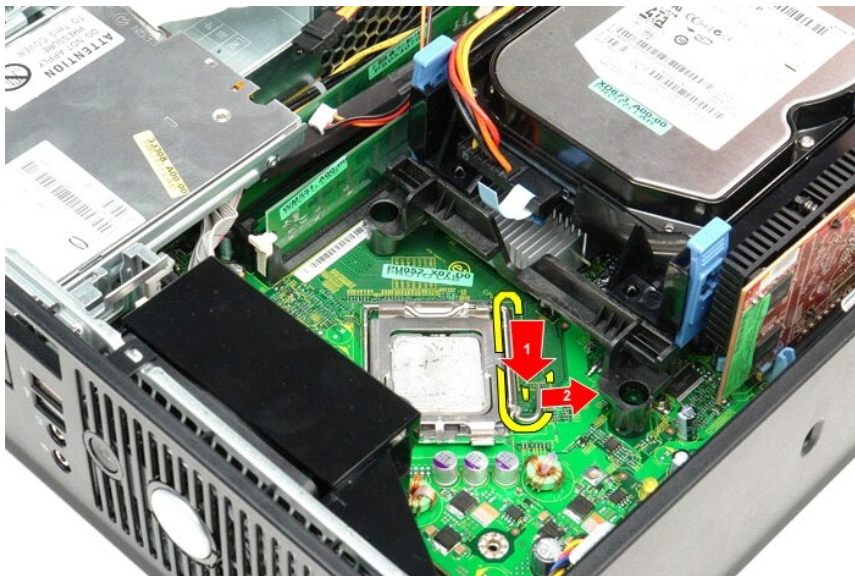
1. [コンピュータ内部の作業を始める前に](#)の手順に従います。
2. ヒートシンクをシステム基板に固定しているネジをゆるめます。



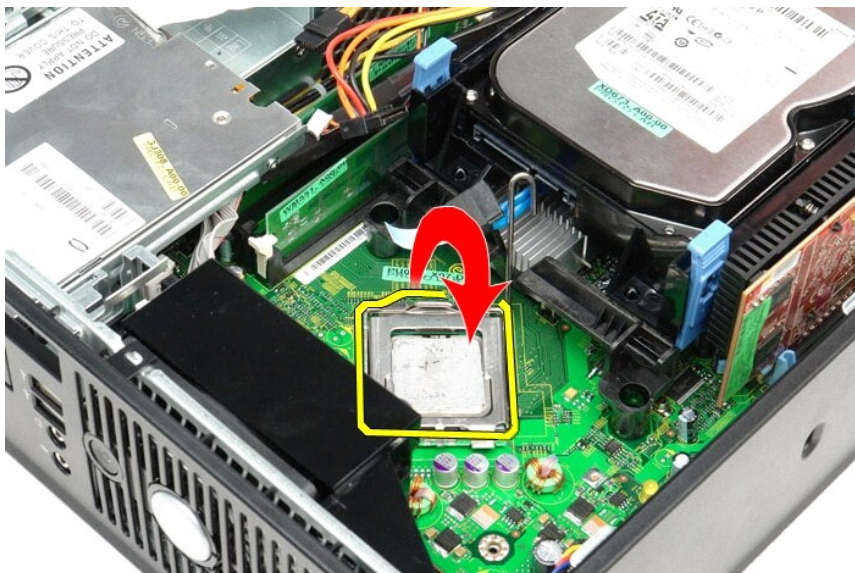
3. ヒートシンクをコンピュータの背面に向かって回し、ヒートシンクを取り外します。



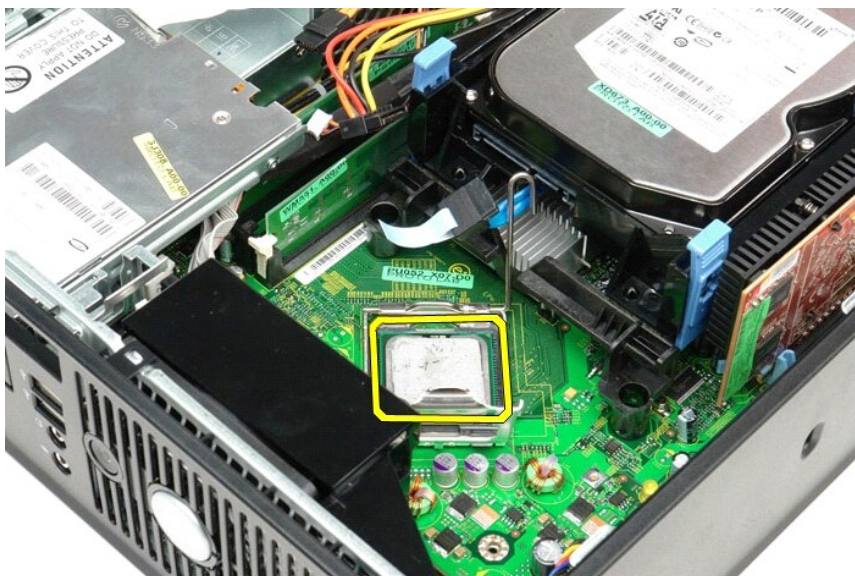
4. プロセッサカバーのリリースレバーを下ろし、カバーを解除します。



5. プロセッサカバーを持ち上げます。



6. プロセッサをシステム基板から取り外します。



△ **注意:** プロセッサを取り付ける際は、ソケット内側のピンに触れたり、ピンの上に物を落とさないようにしてください。

ヒートシンクとプロセッサの取り付け

ヒートシンクとプロセッサを取り付けるには、上記の手順を逆に実行してください。

[目次に戻る](#)

[目次に戻る](#)

I/O パネル

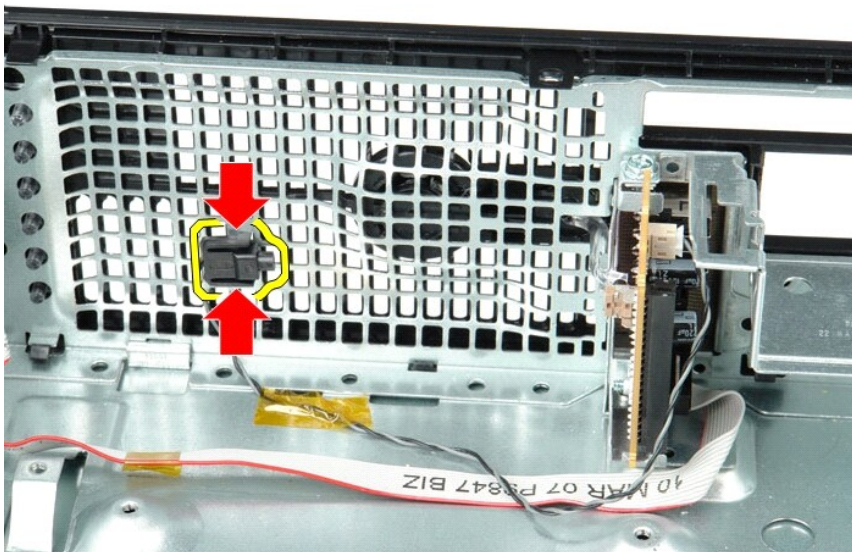
Dell™ OptiPlex™ 380 サービスマニュアル-SFF (スモールフォームファクタ)



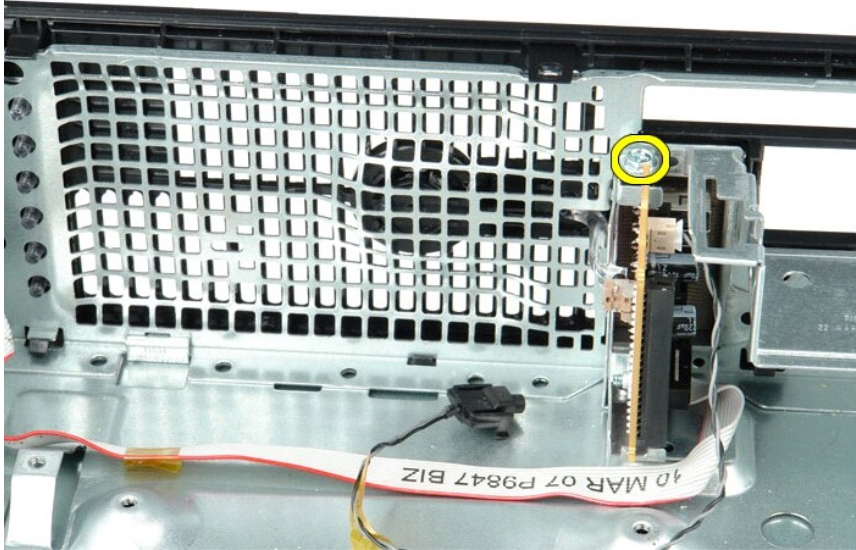
警告: コンピュータ内部の作業を始める前に、お使いのコンピュータに付属しているガイドの安全にお使いいただくための注意事項をお読みください。安全にお使いいただくためのベストプラクティスの追加情報に関しては、規制順守ホームページ www.dell.com/regulatory_compliance をご覧ください。

I/O パネルの取り外し

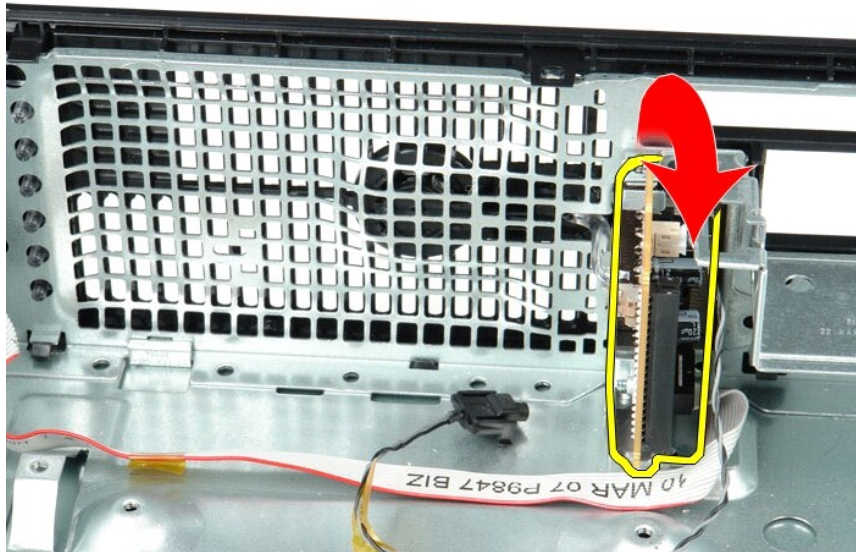
1. [コンピュータ内部の作業を始める前に](#)の手順に従います。
2. [システム基板](#)を取り外します。
3. [ファン](#)を取り外します。
4. 気温センサーの両側のクリップを押し、コンピュータシャーシから取り外します。



5. I/O パネルをコンピュータに固定している取り付けネジを取り外します。



6. I/O パネルを前後に動かして緩め、円形タブをシャーシから取り外します。



7. I/O パネルをコンピュータから取り外します。

I/O パネルの取り付け

前面 I/O パネルを取り付けるには、上記の手順を逆の順序で行います。

[目次に戻る](#)

[目次に戻る](#)

メモリ

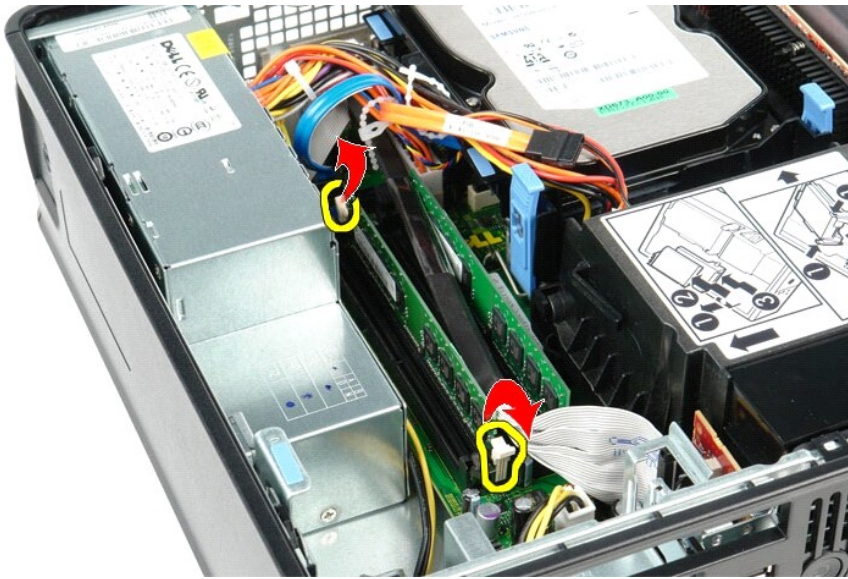
Dell™ OptiPlex™ 380 サービスマニュアル-SFF(スモールフォームファクタ)



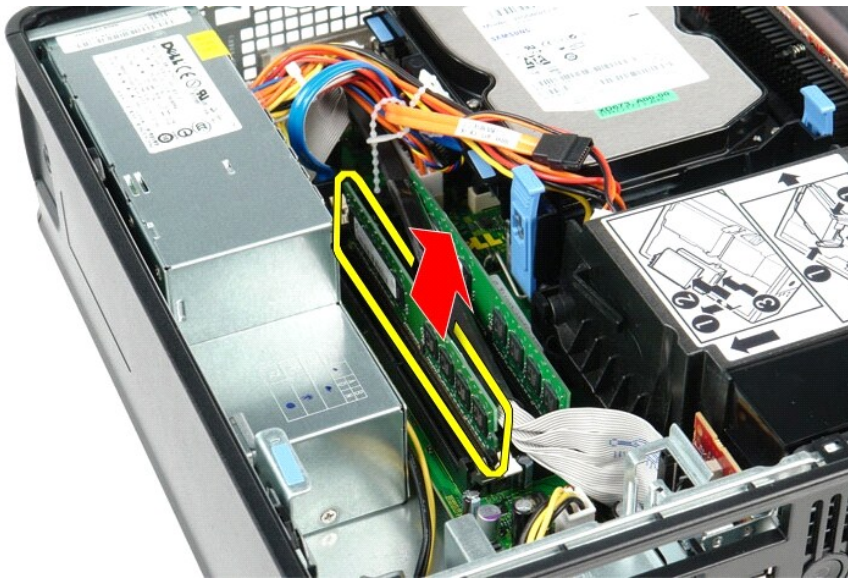
警告: コンピュータ内部の作業を始める前に、お使いのコンピュータに付属しているガイドの安全にお使いいただくための注意事項をお読みください。安全にお使いいただくためのベストプラクティスの追加情報に関しては、規制順守ホームページ www.dell.com/regulatory_compliance をご覧ください。

メモリモジュールの取り外し

1. [コンピュータ内部の作業を始める前](#)にの手順に従います。
2. メモリ固定クリップを押し下げて、メモリモジュールを外します。



3. システム基板のコネクタからメモリモジュールを持ち上げながら、コンピュータから取り出します。



メモリモジュールの取り付け

メモリモジュールを取り付ける場合は、上記の手順を逆に実行してください。

[目次に戻る](#)

[目次に戻る](#)

オプティカルドライブ

Dell™ OptiPlex™ 380 サービスマニュアル—SFF (スモールフォームファクタ)



警告: コンピュータ内部の作業を始める前に、お使いのコンピュータに付属しているガイドの安全にお使いいただくための注意事項をお読みください。安全にお使いいただくためのベストプラクティスの追加情報に関しては、規制順守ホームページ www.dell.com/regulatory_compliance をご覧ください。

オプティカルドライブの取り外し

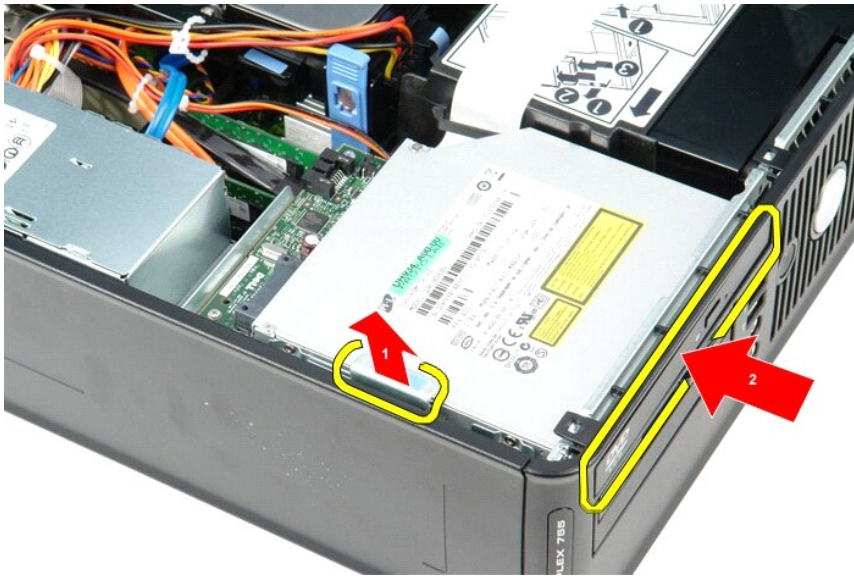
1. [コンピュータ内部の作業を始める前に](#)の手順に従います。
2. 電源ケーブルをオプティカルドライブの背面から外します。



3. データケーブルをオプティカルドライブの背面から外します。



4. ドライブリリースラッチを引き上げ、光学ドライブをコンピュータの背面方向にスライドさせます。



5. 光学ドライブを持ち上げながら、コンピュータから取り出します。



光学ドライブの取り付け

光学ドライブを取り付けるには、上記の手順を逆の順序で行います。

[目次に戻る](#)

[目次に戻る](#)

部品の取り外しと取り付け

Dell™ OptiPlex™ 380 サービスマニュアル-SFF (スモールフォームファクタ)

- [カバー](#)
- [オプティカルドライブ](#)
- [メモリ](#)
- [ヒートシンクとプロセッサ](#)
- [コイン型バッテリー](#)
- [ファン](#)
- [ハードドライブ](#)
- [拡張カード](#)
- [電源ユニット](#)
- [システム基板](#)
- [I/O パネル](#)

[目次に戻る](#)

[目次に戻る](#)

電源ユニット

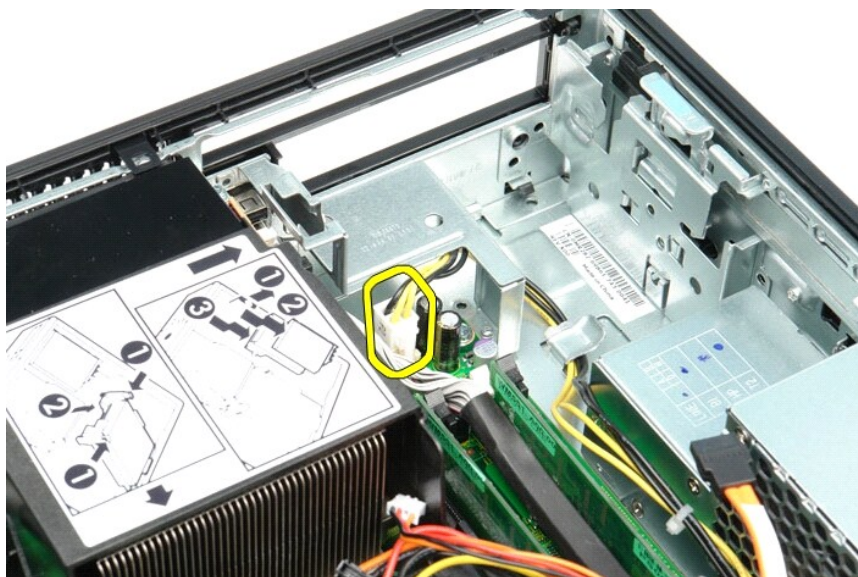
Dell™ OptiPlex™ 380 サービスマニュアル-SFF(スモールフォームファクタ)



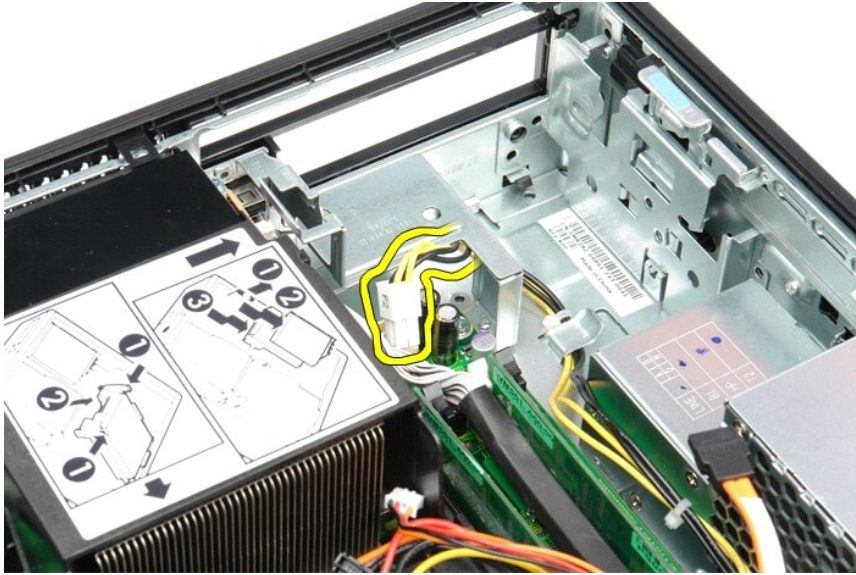
警告: コンピュータ内部の作業を始める前に、お使いのコンピュータに付属しているガイドの安全にお使いいただくための注意事項をお読みください。安全にお使いいただくためのベストプラクティスの追加情報に関しては、規制順守ホームページ www.dell.com/regulatory_compliance をご覧ください。

電源ユニットの取り外し

1. [コンピュータ内部の作業を始める前](#)に手順に従います。
2. [光学ドライブ](#)を取り外します。
3. プロセッサ電源ケーブルをシステム基板から外します。



4. プロセッサ電源ケーブルをシャーシの配線ガイドから取り外します。



5. リリースラッチを押し、システム基板からメイン電源ケーブルを外します。



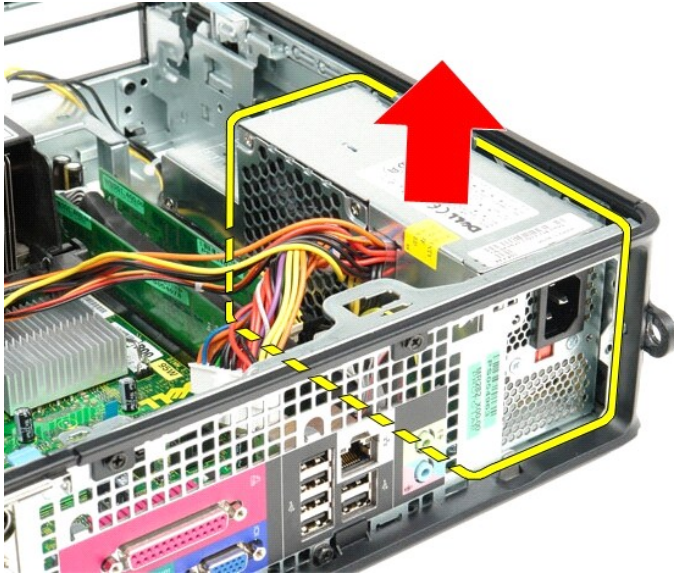
6. 電源ユニットをコンピュータシャーシに固定しているネジを取り外します。



7. 電源ユニットをコンピュータの前面へスライドさせます。



8. 電源ユニットを持ち上げながら、コンピュータから取り出します。



電源ユニットの取り付け

電源ユニットを取り付ける場合は、上記の手順を逆に行ってください。


[目次に戻る](#)

[目次に戻る](#)

仕様

Dell™ OptiPlex™ 380 サービスマニュアル-SFF (スモールフォームファクタ)

- [システム情報](#)
- [メモリ](#)
- [オーディオ](#)
- [拡張バス](#)
- [ドライブ](#)
- [システム基板コネクタ](#)
- [寸法と重量](#)
- [プロセッサ](#)
- [ビデオ](#)
- [ネットワーク](#)
- [カード](#)
- [外付けコネクタ](#)
- [電源](#)
- [環境](#)

 **メモ:** 提供される内容は地域により異なる場合があります。コンピュータの構成の詳細については、スタート→、ヘルプとサポート の順にクリックし、お使いのコンピュータに関する情報を表示するためのオプションを選択してください。

システム情報	
チップセット	Intel® G41 Express チップセット
DMA チャネル	8
割り込みレベル	24
BIOS チップ(NVRAM)	16 Mb(2 MB)

プロセッサ	
タイプ	Intel Core™2 Quad、Core2 Duo、Intel Pentium® Dual-Core、Intel Celeron® Dual-Core、Intel Celeron
L2(レベル 2)キャッシュ	512 KB ~ 12 MB(プロセッサモデルに応じて)

メモリ	
タイプ	DDR3 SDRAM(非 ECC メモリのみ)
スピード	1067 MHz
コネクタ	2 個
容量	1 GB または 2 GB
最小メモリ	1 GB
最大メモリ	4 GB

ビデオ	
内蔵	Intel GMA X4500
外付け	PCI-E x16 ハーフレンギンググラフィックスカード DVI x 2 および S ビデオ x 1 出力、または DVI x 1、VGA x 1、および S ビデオ x 1 出力: NVIDIA GeForce 9300 GE - 256 MB ATI Radeon™ HD 3450 - 256 MB

オーディオ	
内蔵	5.1 チャンネルハイデフィニションオーディオ

ネットワーク	
内蔵	10/100/1000 Mb/s の通信が可能な Broadcom BCM57780 Gigabit ネットワークインタフェースカード

拡張バス	
バスのタイプ	PCI 2.3 PCI Express 1.0 SATA 1.0A および 2.0 USB 2.0
バス速度	PCI: 133 MB/ 秒 PCI Express: x16 スロット双方向速度 — 8 GB/ 秒 SATA: 1.5 Gb/ 秒 および 3.0 Gb/ 秒 USB: 480 Mb/ 秒

カード	
-----	--

PCI:	フルハイト	ロープロファイル
ミニタワー	2 個	なし
デスクトップ	2 個 (PCI ライザー搭載)	
スモールフォームファクタ	なし	1 個
PCI-Express x16 (PCI-Express x1 をサポート):		
ミニタワー	1 個	
デスクトップ	1 個 (コンボライザー搭載)	
スモールフォームファクタ	なし	1 個

ドライブ	
外部アクセス用	
5.25 インチドライブベイ	ミニタワー — 2 台 デスクトップ — 1 台 スモールフォームファクタ — 1 台 (薄型)
内部アクセス用:	
3.5 インチドライブベイ	ミニタワー — 2 台 デスクトップ — 1 台 スモールフォームファクタ — 1 台

外付けコネクタ	
オーディオ	
背面パネル	コネクタ x 2 (ライン出力およびライン入力 / マイク)
前面パネル	マイクおよびヘッドフォン用のコネクタ 2 個
ネットワークアダプタ	RJ45 コネクタ x 1
シリアル	9 ピンコネクタ 1 個、16550C 互換
パラレル	25 ピンコネクタ 1 個
USB	
前面パネル	2 個
背面パネル	6 個
ビデオ	15 ピン VGA コネクタ 28 ピン DVI-I コネクタ メモ: 使用可能なビデオコネクタは、選択したグラフィックスカードによって異なる場合があります。

システム基板コネクタ	
PCI 2.3	
コネクタ	120 ピンコネクタ
データ幅 (最大)	32 ビット
PCI Express x16:	
コネクタ	164 ピンコネクタ
データ幅 (最大)	PCI-Express レーン x 16
シリアル ATA	ミニタワー — 7 ピンコネクタ x 3 デスクトップ — 7 ピンコネクタ x 3 スモールフォームファクタ — 7 ピンコネクタ x 2
メモリ	240 ピンコネクタ x 2
プロセッサファン	5 ピンコネクタ x 1
システムファン	5 ピンコネクタ x 1
前面パネルコントロール / 前面パネルオーディオ	40 ピンコネクタ x 1
プロセッサ	LGA775 コネクタ x 1
電源 12V	4 ピンコネクタ x 1
電源	24 ピンコネクタ x 1

電源			
ミニタワー:	ワット数	最大熱消費	電圧
EPA 非準拠	255 W	1,338 (BTU/hr)	115/230 VAC, 50/60 Hz, 6.5/3.5 A
EPA	255 W	1,023 (BTU/hr)	100-240 VAC, 50/60 Hz, 1.8/3.6 A
デスクトップ:			
EPA 非準拠	235 W	1,233 (BTU/hr)	115/230 VAC, 50/60 Hz, 6.5/3.5 A
EPA	255 W	1,023 (BTU/hr)	100-240 VAC, 50/60 Hz, 2.0/4.0 A
スモールフォームファクタ:			

EPA 非準拠	235 W	1,233(BTU/hr)	115/230 VAC、50/60 Hz、6.5/3.5 A
EPA	235 W	943(BTU/hr)	100-240 VAC、50/60 Hz、1.8/3.5 A
コイン型バッテリー	3 V CR2032 コイン型リチウムバッテリー		

メモ: 熱消費は電源ユニットのワット数定格によって算出されています。

メモ: 電圧設定に関する重要な情報については、コンピュータに付属しているガイドの安全にお使いいただくための注意事項を参照してください。

寸法と重量				
	縦幅	横幅	奥行き	重量
ミニタワー	40.8 cm	18.7 cm	43.3 cm	12.0 kg
デスクトップ	11.4 cm	39.9 cm	35.3 cm	9.0 kg
スモールフォームファクタ	9.3 cm	31.4 cm	34.0 cm	7.0 kg

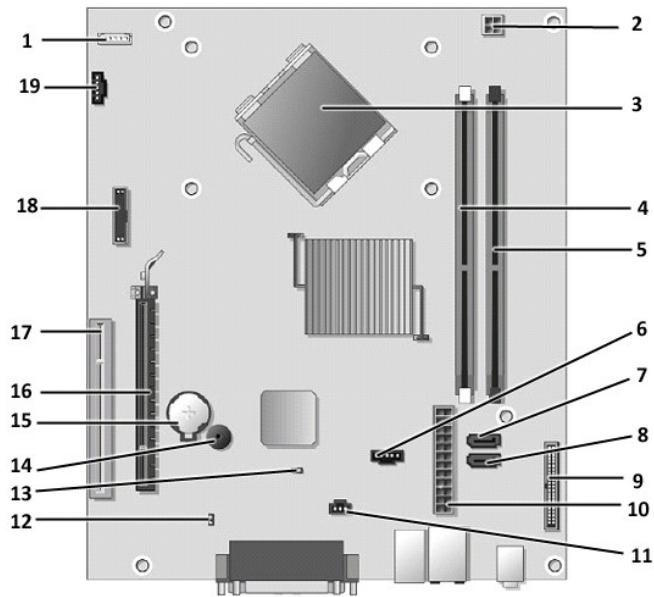
環境	
温度	
動作時	10 ~ 35 °C
保管時	-40 ~ 65 °C
相対湿度(結露しないこと)	動作時: 20 ~ 80 % (最大湿球温度 29 °C) 動作時: 5 ~ 95 % (最大湿球温度 38 °C)
最大振動	
動作時	0.0002 G2/Hz で 5 ~ 350 Hz
保管時	0.001 ~ 0.01 G2/Hz で 5 ~ 500 Hz
最大衝撃	
動作時	パルス持続時間 2 ミリ秒 +/- 10 % で 40 G +/- 5 % (51 cm/秒に相当)
保管時	パルス持続時間 2 ミリ秒 +/- 10 % で 105 G +/- 5 % (127 cm/秒に相当)
高度	
動作時	-15.2 ~ 3,048 m
保管時	-15.2 ~ 10,668 m
空気中浮遊汚染物質レベル	G2、または ISA-S71.04-1985 が定める規定値以内

[目次に戻る](#)

[目次に戻る](#)

システム基板レイアウト

Dell™ OptiPlex™ 380 サービスマニュアル-SFF(スモールフォームファクタ)



1	スピーカーコネクタ(INT_SPKR)	2	プロセッサ電源コネクタ(12 V POWER)
3	プロセッサコネクタ(CPU)	4	メモリモジュールコネクタ(DIMM_1)
5	メモリモジュールコネクタ(DIMM_2)	6	ハードドライブファンコネクタ(FAN_HDD)
7	SATA ドライブコネクタ(SATA 0)	7	SATA ドライブコネクタ(SATA1)
8	前面パネルコネクタ(FRONTPANEL)	8	電源コネクタ(POWER)
9	シャーシイントルージョンスイッチコネクタ(INTRUDER)	9	パスワードジャンパ(PSWD)
10	リセットジャンパ(RTCRST)	10	内蔵スピーカー(SPKR)
11	コイン型電池ソケット(BATTERY)	11	PCI Express x16 コネクタ(SLOT1)
12	PCI コネクタ(SLOT2 および SLOT3)	12	シリアル /PS/2 コネクタ(PS2/SER2)
13	プロセッサファンコネクタ(FAN_CPU)		

[目次に戻る](#)

[目次に戻る](#)

システム基板

Dell™ OptiPlex™ 380 サービスマニュアル-SFF(スモールフォームファクタ)



警告: コンピュータ内部の作業を始める前に、お使いのコンピュータに付属しているガイドの安全にお使いいただくための注意事項をお読みください。安全にお使いいただくためのベストプラクティスの追加情報に関しては、規制順守ホームページ www.dell.com/regulatory_compliance をご覧ください。

システム基板の取り外し

1. [コンピュータ内部の作業を始める前](#)に手順に従います。
2. [光学ドライブ](#)を取り外します。
3. [ハードドライブ](#)を取り外します。
4. [拡張カード](#)を取り外します。
5. [メモリ](#)を取り外します。
6. [ヒートシンクとプロセッサ](#)を取り外します。
7. プロセッサ電源ケーブルをシステム基板から外します。



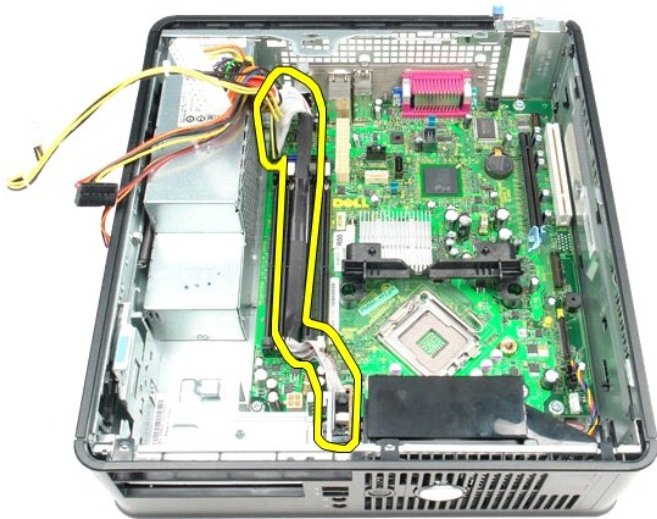
8. ハードドライブと光学ドライブのデータケーブルをシステム基板から外します。



9. メイン電源コネクタを外します。



10. I/O パネルケーブルをシステム基板から取り外します。



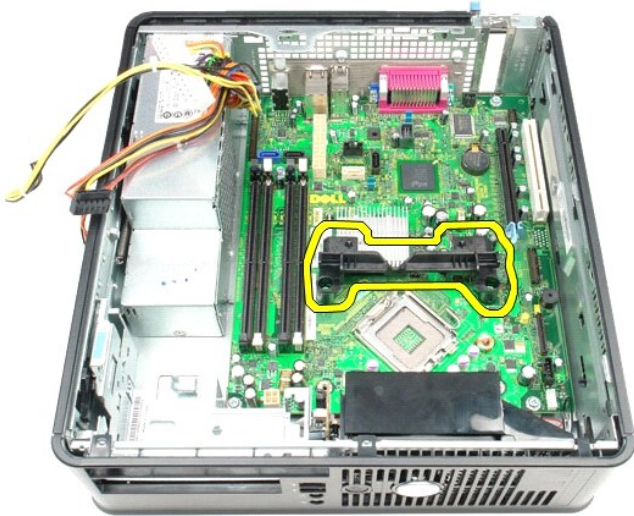
11. システムファンケーブルを外します。



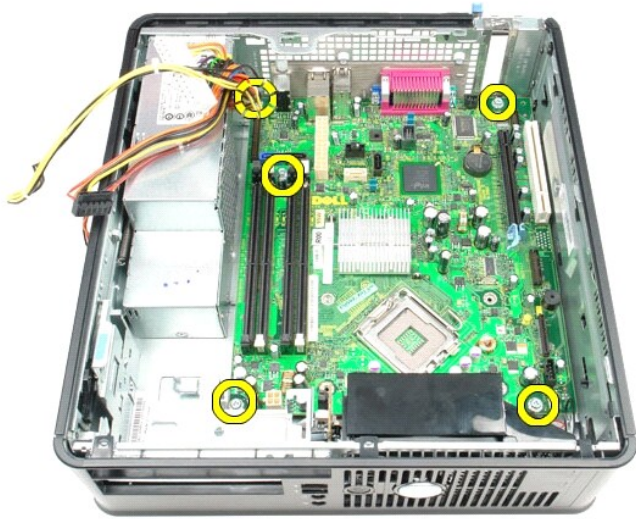
12. ヒートシンク固定モジュールをシステム基板に固定しているネジを外します。



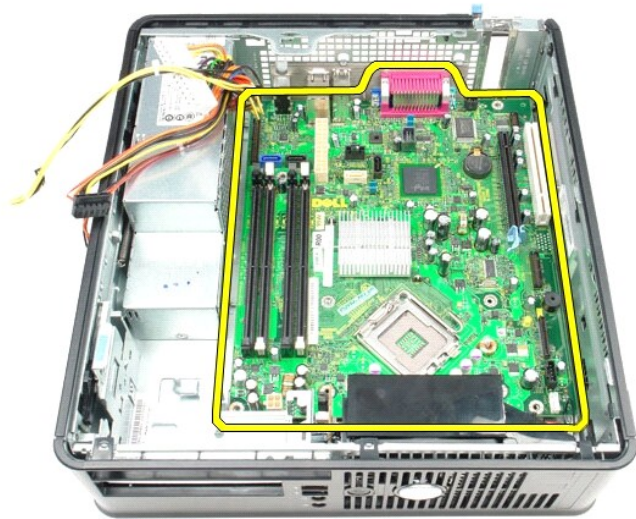
13. ヒートシンク固定モジュールを取り外します。



14. システム基板をコンピュータシャーシに固定しているネジを取り外します。



15. システム基板を取り外します。



システム基板の取り付け

システム基板を取り付けるには、上記の手順を逆の順序で行います。

[目次に戻る](#)

[目次に戻る](#)

コンピュータ内部の作業

Dell™ OptiPlex™ 380 サービスマニュアル-SFF (スモールフォームファクタ)

- [コンピュータ内部の作業を始める前に](#)
- [奨励するツール](#)
- [コンピュータの電源を切る方法](#)
- [コンピュータ内部の作業の後で](#)

コンピュータ内部の作業を始める前に

コンピュータの損傷を防ぎ、ご自身を危険から守るため、次の安全に関する注意事項に従ってください。特に指示がない限り、本書に記されている各手順では、以下の条件を満たしていることを前提とします。

- 1 [コンピュータ内部の作業](#)での手順を完了していること。
- 1 お使いのコンピュータに付属しているガイドの安全にお使いいただくための注意事項を読んでいること。
- 1 コンポーネントを交換するか、または別途購入している場合は、取り外し手順と逆の順序で取り付けができること。

警告: コンピュータ内部の作業を始める前に、お使いのコンピュータに付属しているガイドの安全にお使いいただくための注意事項をお読みください。安全にお使いいただくためのベストプラクティスの追加情報に関しては、規制遵守ホームページ www.dell.com/regulatory_compliance をご覧ください。

注意: コンピュータの修理は、認可された技術者のみが行ってください。デルに認可されていない修理 (内部作業) による損傷は、保証の対象となりません。コンピュータに付属している『システム情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意事項を読み、その指示に従ってください。

注意: 静電気放出を避けるため、静電気防止用リストバンドを使用するか、またはコンピュータの裏面にあるコネクタなどの塗装されていない金属面に定期的に触れて、静電気を身体から逃してください。

注意: コンポーネントやカードの取り扱いには十分注意してください。カードのコンポーネントや接点には触れないでください。カードを持つ際は縁を持つか、金属製の取り付けブラケットの部分を持ってください。プロセッサなどのコンポーネントは、ピンではなく縁を持つようにしてください。

注意: ケーブルを外す際には、ケーブルそのものを引っ張らず、コネクタまたはそのプルタブを持って引き抜いてください。ロックタブ付きのコネクタがあるケーブルもあります。このタイプのケーブルを外すときは、ロックタブを押し込んでケーブルを抜きます。コネクタを外すときは、コネクタのピンを曲げないようにまっすぐに引き抜きます。また、ケーブルを接続する際は、両方のコネクタの向きが合っていることを確認してください。

メモ: お使いのコンピュータの色および一部のコンポーネントは、本書で示されているものと異なる場合があります。

コンピュータの損傷を防ぐため、コンピュータ内部の作業を始める前に、次の手順を実行します。

1. カバーに傷がつかないように、作業台が平らであり、汚れていないことを確認します。
2. コンピュータの電源を切ります ([コンピュータの電源を切る方法](#)を参照)。

注意: ネットワークケーブルを外すには、まずケーブルのプラグをコンピュータから外し、次にネットワークデバイスから外します。

3. コンピュータからすべてのネットワークケーブルを外します。
4. コンピュータ、および取り付けられているすべてのデバイスをコンセントから外します。
5. システムのコンセントが外されている状態で、電源ボタンをしばらく押して、システム基板の静電気を除去します。
6. [カバー](#)を取り外します。

注意: コンピュータ内部の部品に触れる前に、コンピュータ背面の金属部など塗装されていない金属面に触れて、身体の静電気を逃がしてください。作業中も、塗装されていない金属面に定期的に触れて、内蔵コンポーネントを損傷するおそれのある静電気を逃がしてください。

奨励するツール

本書で説明する操作には、以下のツールが必要です。


- 1 小型のマイナスドライバ
- 1 プラスドライバ
- 1 小型のプラスチックスクリュー
- 1 フラッシュ BIOS アップデートプログラムメディア

コンピュータの電源を切る方法

注意: データの損失を防ぐため、開いているすべてのファイルを保存してから閉じ、実行中のすべてのプログラムを終了してから、コンピュータの電源を切ります。

1. 次の手順で OS をシャットダウンします。

- 1 Windows Vista® の場合

スタート  をクリックして、スタートメニューの右下の次に示す矢印をクリックし、シャットダウンをクリックします。



- 1 Windows® XP の場合

スタート → コンピュータの電源を切る → 電源を切る の順にクリックします。


OS のシャットダウン処理が完了すると、コンピュータの電源が切れます。

2. コンピュータとすべての周辺機器の電源が切れていることを確認します。オペレーティングシステムをシャットダウンした際にコンピュータおよび取り付けられているデバイスの電源が自動的に切れなかった場合は、電源ボタンを 6 秒以上押し続けて電源を切ります。

コンピュータ内部の作業の後で

交換(取り付け)作業が完了したら、コンピュータの電源を入れる前に、外付けデバイス、カード、ケーブルを接続したか確認してください。

1. [カバー](#)を取り付けます。

 **注意:** ネットワークケーブルを接続するには、ケーブルを最初にネットワークデバイスに差し込み、次にコンピュータに差し込みます。

2. 電話線、またはネットワークケーブルをコンピュータに接続します。
3. コンピュータ、および取り付けられているすべてのデバイスを電源に接続します。
4. コンピュータの電源を入れます。
5. Dell Diagnostics(診断)を実行して、コンピュータが正しく動作することを確認します。[Dell Diagnostics](#) を参照してください。

[目次に戻る](#)